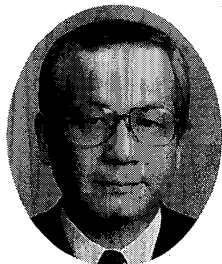


会長からのメッセージ

環境変化に対応した「Qの確保」「Qの展開」「Qの創造」 に向けて



東京工業大学 教授
圓川 隆夫

桜井前会長のときに策定した第1期中期計画も、いよいよ3年目を迎えている。表題にある環境変化とは、製品や技術開発のスピード化の要請や、この数年間で10%台から30%台に急速に増えている非正規社員の割合などである。このような変化の中でQを確実に作り込み、創造していくための実践研究が産学連携プロジェクトや学会内の研究会・部会を通して行われている。

特に産学連携の取り組みとしては、日科技連の「次世代TQMの構築」プロジェクトとの連携のもとで、開発段階での自工程完結、一貫通貫の品質管理、多目的最適化設計手法などのプロジェクト(いずれも仮称)がすでに発進している。今後、製品寿命に関する次世代設計思想の確立などのテーマが加わる予定である。それぞれの成果を期待するとともに、固有技術の分野では当たり前化している企業の正式な契約のもとでの委託研究や共同研究が、品質管理の分野でも広がる契機にしたいと考えている。そのような契約を通して、それが大学における個人の評価、ひいては品質管理分野の大学での評価につながるからである。

また、当初なかった中期計画の学会発信度強化の目玉の方策として、初の試みである学会編集による『新版品質保証ガイドブック』(日科技連出版社)、そして『JSQC選書』(日本規格協会)の発刊がある。前者は1974年に発刊され、わが国の品質保証の礎となった『品質保証ガイドブック』を踏襲しつつ時代の変化を取り込んだもので、1,000頁にもなる大作で2009年度末の刊行を目指す。後者は「新・質の時代」に求められる素人でも読める教養講座であり、本年半ばの5冊の刊行(予定)を皮切りに15冊程度

の刊行を見込んでいる。すでに昨年末に学会内に編集のための特別委員会を立ち上げ、またそれぞれの出版社との契約を終え精力的な準備が行われている。執筆など多くの学会員の方々に是非協力をお願いしたい。

一方、学会設立40周年も間近になり成熟期を迎えて、会員数について中期計画では特に若手会員の増強を謳っている。幸い本学会が監修するQC検定が2年目を迎え、大幅な受験者の増加があり、年ベースでは3万人に達する勢いであり、組織ぐるみで受験を奨励し品質管理教育の一環としている企業も増えているようである。これにより品質管理の理解の拡大が図れる。加えて1級、2級の合格者の中には学会への入会者もある。是非、この好循環サイクルをさらにスパイラルアップさせていきたい。

本学会は、もともと大学を除けば製造業の会員がほとんどであった。最近医療の分野の会員は著しく増加したが、わが国就業人口の70%以上占めるいわゆるサービス産業の会員は少ない。昨年安倍内閣のもとで策定されたイノベーション25では、サービスイノベーションという言葉が喧伝された。これは製造業に比べてサービス産業の生産性が対外的に著しく低いということにも端を発するものであるが、企業の品質向上のインセンティブを与える方策として経済産業省を中心にサービス産業における企業の顧客満足度調査の計画が動きだしている。当学会からも関連の委員会に代表を派遣している。また、日本発のソフトウェア品質の知識体系ガイドであるSQuBOKが、日科技連との共同で刊行された。中長期的にはこのような流れを是非サービス産業への「Qの展開」へと結びつけていきたい。